JICA's World
2009 MARCH No.06
[ジャイカズ ワールド] 平成21年3月1日発行(毎月1回1日発行) 編集・発行/独立行政法人 国際協力機構
〒151-8558 東京都渋谷区代々木2-1-1 新宿マインズタワー内 TEL 03-5352-5433 FAX 03-5352-5032 http://www.jica.go.jp/
ISSN 1883-2768

MY ACTION VOL.06

ベナンの発展に命を懸ける

photo by Otsuka Masataka

タレント
ゾマホン・ルフィン
ZOMAHOUN-DOSSOU-CYR-RUFIN

PROFILE
1964年ベナン出身。94年に来日。99年上智大学大学院博士後期課程入学。バラエティー番組「ここがヘンだよ日本人」などに出演。ビートたけしの付き人でもある。2000年、ベナンに「たけし小学校」を建設以降、教育や医療、環境分野などで協力活動を推進。04年よりベナンの大統領特別顧問。05年にNPO法人IFEを設立。著書に『ゾマホンのほん』(河出書房新社)など。

中学生のころに日本という国を知って以来、ずっと不思議でした。なぜ資源に恵まれていない日本が世界一の先進国に発展できたのか。

でも来日してその理由が分かりました。日本が発展したのは、教育を大切にしてきたからです。江戸時代には子どもたちが寺子屋で学び、みんな平等に教育を受けることができました。だから1920年代には初等教育の就学率が100%に達し、先進国になっていったのだと思います。

ところが、ベナンの就学率は今でも78%。校舎や教員が足りず学費も有料なので、子どもたちは家の農作業などを手伝い、学校に通うことができません。また、教育内容もフランスの語学・文化・歴史などが大半を占め、郷土とつながっていません。

そんなベナンを命懸けで発展させたいと思い、今日まで必死に仕事をしてきました。私の半生をつづった『ゾマホンのほん』がベストセラーになったときは、その印税で「たけし小学校」を、その後も自分の生活費を切り詰めて、「江戸小学校」と「明治小学校」を建設しました。ベナンの子どもたちに日本に興味を持ってもらいたくて日本語で名付けたこの3校には、現在1,600人が通っています。

また、日本との文化交流を図るため、大学生や社会人が対象の「たけし日本語学校」も設立しました。ベナン人が日本に来ることは経済的に難しい。だからベナンにいながら日本に親しみが持てるよう学校をつくり、日本語のほか、農業研修や観光ガイドの養成など就職につながるような教育も行っています。学費が無料なこともあって1,000人以上の受験者が来たんですよ。

教育以外にも医療や環境などベナンには課題が山積みです。最大都市コトヌー近郊のノコエ湖では、水上住宅で暮らす村人の生活排水の垂れ流しやごみの投棄によって湖の水質が悪化。ホテイアオイという水草まで大量発生し、湖が危機に瀕(ひん)しています。「素敵な宇宙船地球号」という番組の企画で今、湖の浄化に取り組んでいますが、JICAにも手を貸してほしい。また、人づくりや留学生の受け入れ、民間投資を呼び込むための協力など、アフリカの人々の幸せのためにリーダーシップを発揮してもらえないでしょうか。いただいた支援は決して無駄にはしません。

日本の皆さん、ベナンという国を知っていますか? アフリカは国ではなく、大陸だということを知っていますか? もし知らないとしたら、それはとても恥ずかしいこと。私の大好きな日本の皆さんに、もっとアフリカを知ってもらえればうれしいです。

PRINTED WITH SOY INK 環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。
本誌は再生紙を使用しています。